

2019年12月1日発行

一般社団法人 日本顎顔面補綴学会

Japanese Academy of Maxillofacial Prosthetics



Newsletter No. 30

Maxillofacial Prosthetics

発行人 米原啓之

編集 広報委員会

事務局 〒135-0033 東京都江東区深川2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel : 03-5620-1953 Fax : 03-5620-1960

E-mail : max-service@onebridge.co.jp

第37回総会・学術大会案内



大会長 山下 善弘
(宮崎大学)

会 期：令和2年6月18日(木)～20日(土)

会 場：ニューウェルシティ宮崎
(宮崎市宮崎駅東1-2-8)

事務局：宮崎大学感覚運動医学講座
顎顔面口腔外科学分野

この度、一般社団法人日本顎顔面補綴学会第37回総会・学術大会を2020年6月18日、19日、20日の3日間にわたり当教室が開催させて頂くことになり、大変光栄に存じます。過去の総会・学術大会を振り返りますと、今回、初めて本学会を宮崎で開催させて頂きます。宮崎は「日本のひなた」と言われるほど、太陽の光がふりそそぐ県ですが、開催日である6月中旬は、丁度、梅雨の時期と相まっているため蒸し暑さを感じるかもしれません。

しかし、本大会ではその暑さにも負けない白熱した議論が交わされることを期待しております。

また、今回のテーマは「顎顔面補綴の新たな展開—外科と補綴の融合—」とさせて頂きました。本学会は歯科医師だけでなく医師、看護師、言語聴覚士など様々な分野からなる学会ですが、その中心を担う補綴と口腔外科が今後、より一層、同じ目線から患者さんを治療するためにも今回は融合という言葉を選ばせて頂きました。本大会を通じてもちろん補綴と口腔外科だけでなく様々な分野が融合することで新たな展開へと本学会が前進することを期待しております。

教室員一同で心を込めて準備をさせていただきますので、宮崎でみなさまのお越しを心よりお待ちしております。それでは「日本のひなた」宮崎の地でお会いしましょう。



会場：ニューウェルシティ宮崎

第36回総会・学術大会報告

令和元年6月27日(木)～29日(土), 東北大学 星陵会館にて, 「リエゾン顎顔面リハビリテーション」をメインテーマとして, 佐々木啓一大会長(東北大学)のもと, 日本顎顔面補綴学会第36回学術大会・総会が開催された。

医学部と歯学部の垣根がない東北大学病院の象徴的な存在である顎口腔再建治療部の実績と経験をもとに, 集学的な顎顔面補綴治療を随所で学ぶことができ, 有意義な学術大会であった。

教育講演



顔の心理学的機能

阿部 恒之先生
東北大学大学院
文学研究科 心理学講座

教育講演では, 「顔の心理学的機能」のテーマのもと, 知覚対象としての顔の特異性, コミュニケーションにおける顔の特異性, 化粧と健康等についてご講演頂いた。ご提示頂いた身近な具体例を通じ, 普段われわれが無意識に様々な「顔」を認識している裏の心理学的な仕組みを学ぶことができ非常に興味深い講演であった。また, 化粧が個人の社会的活動性やコミュニケーションに寄与するのと同様に, 本学会が専門とするエピテーゼや, 顎顔面補綴装置による顔の形態回復という医療を通じ, 患者の心理的健康に貢献できるという心理学の専門家からのお言葉に, 改めてわれわれの責務を感じた講演であった。

(広報委員 中島純子)



学会の様子

特別セッション

顎顔面再建医療でのデジタルデンティストリーの展開

1. 3Dモデルと装着型ガイドを用いた遊離腭骨皮弁による下顎再建へのアプローチ
宮下 仁 先生(東北大学顎顔面・口腔外科学分野)
2. 顎顔面再建治療におけるデジタルテクノロジーの活用
佐藤奈央子 先生(東北大学顎顔面口腔再建治療部)
3. 顎顔面再建医療における歯科技工のデジタルイノベーション
加藤裕光 先生(東北大学病院歯科技術部門)



左から加藤先生, 佐藤先生, 宮下先生

本セッションでは, 東北大学病院におけるデジタル・デンティストリーを用いた顎顔面再建医療について, 多職種連携によるアプローチを口腔外科医, 補綴歯科医, 歯科技工士の観点からお話しいただいた。東北大学病院では, 補綴科, 口腔外科, 形成外科, 耳鼻咽喉科に放射線科や歯科技工士を加えた多診療科参加型合同カンファレンスを行い, 診断や手術方法の決定, 術後評価を, パーチャル・シミュレーションや顎骨モデルの造形, CAD/CAMシステムを用いたカッティングガイドやリポジショニングガイドの製作等, 多種多様なデジタル・テクノロジーを活用して行い, 勉強会では用語や考え方を統一し, チーム一丸となって取り組んでいるのが大変印象的であった。デジタル化により手術時間や体力, 術者と患者の負担が減少し, より精度の高い手術・技術を行っていると発表に, 会員一同大変感銘を受けた。顎顔面領域の顎骨再建は複雑で時間がかかるため, 多くの職種が連携して取り組む必要性を改めて認識するとともに, 課題の提示を含め, 今後の顎顔面

補綴治療におけるデジタル・テクノロジーの活用によりよい医療を提供するための手がかりや希望をも見ることができたと思う。

(広報委員 大木明子)

教育研修会

保険制度の中での、顎顔面補綴関連の治療および検査方法を学ぶ

1. 歯科保健医療を取り巻く状況と顎顔面補綴関連の保険収載
小嶺祐子 先生(厚生労働省医政局歯科保健課)
2. 顎顔面補綴関連の保険収載項目の実際
病名、算定に際しての注意点
吉岡 文 先生(愛知学院大学歯学部有床義歯学講座)
3. 口腔機能低下症の検査の手順および算定方法
石崎 憲 先生(東京歯科大学老年歯科補綴学講座)



左から吉岡先生、小嶺先生、米原理事長、石崎先生

学術大会の最終日には「保険制度の中での顎顔面補綴関連の治療および検査方法を学ぶ」をテーマとして教育研修会が行われた。本研修会は近年新たに保険収載された顎顔面補綴に関連する項目について、適切な治療法や検査方法に併せて、適切な算定方法を再確認することを主な目的として開催された。まず厚生労働省医政局歯科保健課の小嶺先生より顎顔面補綴関連の保険改定の背景を、歯科保健医療を取り巻く状況をふまえて詳しく解説いただいた。さらに愛知学院大学の吉岡より術後即時顎補綴装置を含めた上顎の顎補綴治療、ならびに下顎の顎補綴治療・口腔内装置の製作法や算定方法についての解説を行った。また、東京歯科大学の石崎先生より口腔機能低下症の詳細にわたる解説と検査の実際、算定方法について

詳しく解説を頂いた。パネルディスカッションでは、会場内の会員の先生方より、それぞれの症例に応じた検査方法や算定方法、装置の製作方法について多くの質疑応答や討論があり、本学会らしい素晴らしいディスカッションとなった。

(広報委員会 吉岡 文)

関連学会報告

7th ADT (Advanced digital technology in H&N reconstruction)

令和元年6月20日(木)～22日(土)に東京 コングレススクエア日本橋にて7th ADT (Advanced digital technology in H&N reconstruction) biennial congress が「Touch the next digital Era」をメインテーマとして開催されました。ADTは頭頸部領域の最新のデジタル技術について医療者と技術者が集まり、2年に一度開催される国際学会です。参加者は形成外科や医科や歯科、歯科技工士、Anaplastologistなどのアカデミア、医療従事者だけでなく、エンジニアや研究者など多くの職種、業種の会員が世界中から集まり、最新の頭頸部領域におけるデジタル技術の活用に関する発表や討論、新技術の紹介などを行いました。

本学会の関連分野では、エピテーゼやインプラントのデジタル治療に関する発表や Navigation Surgery や Robotic Surgery、さらには Virtual Reality についての講演もありました。また企業展示やワークショップでは、実際に装置を身につけてのVR体験などもでき、Digital Technology を身近に感じる良い機会となりました。次回の大会は2021年、オランダのアムステルダムで行われる予定です。(広報委員 吉岡 文)



ワークショップの様子

18th Biennial Meeting of the ICP Meeting Jointly with European Prosthodontic Association (EPA)

2019年9月4日(水)～7日(土), 18th Biennial Meeting of the ICP Meeting Jointly with the European Prosthodontic Association (EPA) がオランダ アムステルダム の Beurs van Berlage にて開催され, 約60か国からの参加があったそうです。補綴領域における研究, 臨床について企画が組まれていました。

9月5日午後からは Multidisciplinary/Maxillofacial I および II と題し, 顎顔面補綴治療に関するセッションが行われました。顎骨欠損を生じる悪性腫瘍だけでなく, 薬剤関連顎骨壊死(MRONJ) やエナメル上皮腫の特徴やそれらに対する治療法についても症例を交えた講演がありました。やはり, 広範囲におよぶ硬組織の欠損に対し行う治療の特殊性や難しさについて言及されることが多いと感じました。また, 術前から再建に至るまで3Dイメージを積極的に活用することは, 補綴領域と外科領域双方の情報共有が可能となり, 治療計画を立てる際にも有用であることも述べられていました。一般口演でもポスター発表でも顎顔面補綴領域の発表があり, 顎顔面補綴治療への関心の高さを感じました。

(九州歯科大学 榎原絵理)



学会会場の様子

第49回 日本口腔インプラント学会学術大会

2019年9月20日(金), 21日(土), 22日(日)の3日間, 第49回公益社団法人 日本口腔インプラント学会学術大会が福岡国際会議場・福岡サンパレスホテル&パークにて福岡歯科大学の城戸寛史大会長のもとで開催されました。

昨年の学術大会において掲げられた「大阪宣言」に引き続き, 本学術大会でもメインテーマである「インプラント治療が拓く未来 ―スキルとテクノロジーの融合―」を基にした「福岡宣言」が掲げられました。

顎顔面補綴領域に関する内容としては, 「保険適応インプラントの現状と課題, そして将来展望」と題したシンポジウムが開催され, 患者の経済負担が少なく良好な機能改善が可能であるが, 未だ困難とされる保険点数の算定法や適応症の解釈などの問題点についても議論され, 我々にとっても密接な内容であり興味深く拝聴させていただきました。また, 一般口演・ポスター発表においても, 本領域に関わる発表が散見されました。

台風17号の接近により最終日のプログラムに若干の変更があり, 帰路に影響を受けた会員もみえたようですが, 盛会のうちに閉会となりました。来年は9月18～20日にパシフィコ横浜にて開催予定となっております。

(愛知学院大学 宮前 真)

American Academy of Maxillofacial Prosthetics 66th Annual Meeting

2019年10月26日～29日, アメリカ合衆国フロリダ州 Miami にて American Academy of Maxillofacial Prosthetics 66th Annual Meeting が行われた。本学会は, 「The Changing Art and Science of Maxillofacial Prosthetics」をテーマに開催された。

顎顔面補綴治療や頭頸部癌治療の最新トピックに関して, 顎顔面補綴医, 口腔外科, 頭頸部外科医, 放射線科医, アナプラストロジストなど様々な専門家による講演があった。特にデジタル技術の向上により, 頭頸部再建および補綴的再建がより高

い精度で可能となり、術後の機能回復に大きく寄与しているという内容が多く発表されていた。

初日のポスターセッションでは、東京医科歯科大学から5題の演題発表があった。

Student Awardは研究分野ではMayo ClinicのHarper Matthew先生が遊離腭骨皮弁再建後のインプラント補綴装置による合併症について評価した内容で受賞された。また症例報告分野ではNanjing UniversityのChen Xi先生が軟口蓋欠損への顎補綴装置をCAD/CAMによりポリエーテルケトンケトンで製作した症例により受賞された。またエピテーゼ材料、NasoAlveolar Molding、耳介エピテーゼ用インプラントのワークショップも行われた。

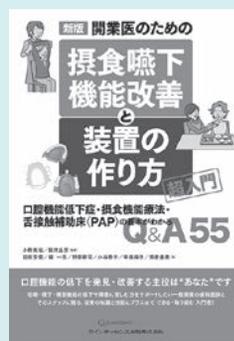
今回我々はNew York University-Langone Medical CenterのLawrence Brecht先生によるNaso Alveolar Molding (NAM)のワークショップに参加した。模型による実習を行いNAM製作についての注意点および必要な技工操作について理解を深めた。Brecht先生の講義および実技指導は経験と知識に裏付けられた重要な内容ばかりで我々も多くのことを学ぶことができる実習であった。

次年度の大会は2020年11月1日～3日、ルイジアナ州ニューオリンズで行われる予定である。

(東京医科歯科大学 村瀬 舞)



書籍紹介



『新版 開業医のための摂食嚥下機能改善と装置の作り方 超入門—口腔機能低下症・摂食機能療法・舌接触補助床(PAP)の基本がわかるQ&A55—』

クインテッセンス出版

価格:本体 6,000円(税別)

2013年に刊行された本書の初版は、開業医向けに、「摂食嚥下リハビリテーションに取り組むために必要とされる、摂食機能療法と舌接触補助床(PAP)の基本的な知識と技術」を解説した、本邦初めての書籍でした。本学会員にとっては慣れ親しんでいる摂食機能療法やPAPですが、一般歯科医院には敷居が高かったこともあり、「これならできそう」「まずはやってみようか」と思えるように、Q&A方式で理論よりわかりやすく示されています。

初版は口腔機能低下症が保険収載された昨年から急に関心が高まって完売となり、PAPの適応範囲や診療報酬の状況も変わってきたため、2019年11月に6年ぶりの改訂版が出版されました。今回の改訂版では、基本的な構成は踏襲しつつ、PAPに関する情報をアップデートして現状に即した形で内容が修正されています。また、昨年4月より保険収載された「口腔機能低下症」および「口腔機能管理加算」についての解説も加わりました。「口腔機能の低下を発見・改善する主役は“あなた”です」というキャッチコピーにもあるように、一般歯科医院における高齢者・有病者を対象とした取り組みと言語聴覚領域などとの医療連携を強化することが歯科界の急務であり、本書がそのために役立つと思われます。

(広報委員 堀 一浩)



Newsletter No. 30

Maxillofacial Prosthetics

関連学会のご案内

●第38回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会

会期：2020年1月23日（木）～24日（金）

大会長：太田嘉英（東海大学医学部口腔外科学）

会場：一橋大学一橋講堂／学士会館

問合せ：【運営事務局】株式会社コンベンション
リンケージ

E-mail：jsoo38@c-linkage.co.jp

<http://www.c-linkage.co.jp/jsoo38/index.html>

●第46回日本コミュニケーション障害学会学術講演会

会期：2020年5月30日（土）～31日（日）

大会長：川崎聡大（東北大学大学院教育学研究科）

会場：東北大学川内北キャンパス

問合せ：東北大学大学院教育学研究科川崎研究室内

E-mail：acd46annual.meeting@sed.tohoku.ac.jp

<https://jacd46.secand.net/index.html>

●第44回日本口蓋裂学会総会・学術集会

会期：2020年6月4日（木）～5日（金）

大会長：後藤滋巳（愛知学院大学歯学部歯科矯正学講座）

会場：ウインクあいち

問合せ：【運営事務局】株式会社JTBコミュニケーションデザインミーティング&コンベンション事業部

E-mail：jcpa44@jtbcom.co.jp

<https://convention.jtbcom.co.jp/jcpa44/>

●第21回日本言語聴覚学会

会期：2020年6月19日（金）～20日（土）

大会長：草野義尊（一般社団法人茨城県言語聴覚士会）

会場：つくば国際会議場

問合せ：【運営事務局】株式会社コングレ九州支社

E-mail：jaslht21@congre.co.jp

<http://www.congre.co.jp/jaslht21/>

●日本老年歯科医学会第31回学術大会

会期：2020年6月20日（土）～21日（日）

大会長：水口俊介（東京医科歯科大学高齢者歯科学分野）

会場：パシフィコ横浜ノース

問合せ：【運営事務局】株式会社日本旅行 ECP
営業部

E-mail：gero_31@nta.co.jp

<http://web.apollon.nta.co.jp/gero31/>

●The 13th Biennial Conference of the ISMR

会期：2020年9月16日（水）～19日（土）

会場：Hyatt Regency Pune, India

<https://ismr-ipsconf.com/home>